

所属・資格 心理学科・教授

申請者氏名 津川 律子

研究課題		心理アセスメントを含むケース・フォーミュレーション
報告の概要	研究目的 および 研究概要	心理アセスメントを含む精緻なケース・フォーミュレーションは、臨床心理学分野で強く求められているものであり、ケースや臨床現場に応じたケース・フォーミュレーションについて論考する研究を行う。
	研究の 結果	下記のように、専門学会における研究発表1本、ジャーナルにおける研究論文発表2本を行った。すべて描画法を中心とした専門的な研究である。抑うつ、うつ病、統合失調症、アルツハイマー型認知症といった、臨床現場で公認心理師や臨床心理士が会う状態像や疾患を対象として、実証研究を呈示できたものと思われる。
	研究の 考察・ 反省	描画法を中心とした臨床心理検査に関する研究を進めたが、全体的なテーマであるケース・フォーミュレーションを探求することには至らなかった。単年度の研究を積み重ねることで、ケース・フォーミュレーションの神髄に迫れるような研究を今後、数年計画で考えなくてはいけないものと思われる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 ・五十嵐 愛・津川律子・横田正夫 (2024) : 二枚めり絵法の部分的特徴と抑うつの関連. 日本描画テスト・描画療法学会第33回大会.	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	・水野康弘・有木永子・北島正人・浅川けい・津川律子 (2024) : 自死予防の観点からみた若年うつ病患者と健常群における描画特徴の違いー風景構成法 (LMT), うつ性自己評価式尺度 (SDS), 文章完成法 (SCT) を用いて. 文教大学人間科学部 人間科学研究, 第45号,99-110. ・五十嵐愛・畦地良平・内田竜人・津川律子・横田正夫 (2024) : 二枚めり絵法からみた慢性統合失調症者とアルツハイマー型認知症者の構成障害ー一時計描画テストとの関連. 臨床心理学第24巻3号,364-372.	